

予算監視・効率化チーム会合 議事概要

日 時：平成22年4月16日（金） 13：45～14：45

場 所：国土交通省省議室

（事務局より資料について説明）

（主な質疑等）

- 住宅版エコポイント制度は、家電のエコポイントに比べ、実施が遅れた気がするが、もう少し早くできなかったのか。
- 家電のエコポイントは平成21年度第1次補正で、住宅版エコポイントは新政権になってからの昨年12月の緊急経済対策として第2次補正で措置したもので、事務等準備の関係から本年2月以降の実施になった。
- 緊急経済対策の目標値はあるか。各予算について、いつまでに、どういう効果をどのように出していくという指標が設定されているのか。
- 例えば、観光立国では、2013年までに訪日外国人1500万人というように、個別政策の指標はある。緊急経済対策のための目標値は決めていないが、その効果を見るため指標が設けられている。
- 執行状況とは、10億の予算を10億使ったということだけではないと思う。目標がどれだけ達成できたかというのも執行になる。場合によっては、効率的でないものは執行しないというのも利益になるケースもある。執行状況をどのように捉えるのか、具体的内容を示してほしい。
- 緊急経済対策はできる限り予算措置に頼らないものとして実施している。予算措置をしたものは資料に3月末時点の執行状況を記載している。
- 公共事業以外でもB/Cのような数値目標があるのか。特に緊急経済対策について、この予算でどれだけBが上がるという効果測定はあるか。
- 政策評価の観点では、B/Cではないが、毎年度、目標値を掲げ、達成度を定点的に測定している。一方、緊急経済対策については、足下でどのくらい進捗して効果が上がっているかを見ていくことになる。

- 予算執行計画の重要な調達について、今後の予算編成等に貢献する観点から、対象となる調達以外のものもサンプルとして見るができるようチームリーダーが指定するものを審査できる余地を残してほしい。
- 支出計画の進捗把握・管理について、イメージとして前年度と比べて変わっている部分を抽出してほしい。どこが前年度より増減しているのかわかりやすくしてほしい。
- 公共事業の事後的な検証とは、具体的に何をどう検証するのか。
- 配分方針について、箇所を選ぶ考え方が適切かどうかを事後的に検証して頂きたい。配分方針が恣意的なものになっていないか、効果の面をきちんと見ているかどうか等、ご議論頂きたい。
- B/Cもキーパフォーマンスインディケイターとして何を捉えているのか、その捉え方がわからない。
- それもあるが、B/Cだけで決まっているものでもない。B/Cは対象を絞り込むための基準である。
- 進捗管理の対象となる特定経費はどのような観点で選んでいるのか。
- 基本的には各局で、優先度が高いもの、予算規模が大きいもの等の観点から選定している。

(チームリーダー挨拶)

この予算監視・効率化チームには、単に無駄を見出すというわけではなく、政策目標をしっかりと実行していくために、この予算が実はどうなのかということを実タイムにフィードバックできる仕組みを作って頂きたい。外部有識者のご意見も踏まえながら、民間がやっているPDCAサイクルを省として作り上げて頂きたい。我々がこの22年度の執行を見直しながら行政目標を達成するという大前提を掲げていくことが、削減ばかりでない、前向きな成長戦略に舵を切る新たな23年度予算編成の大きな糧となると思うので、皆様方もそういった観点から取り組んで頂きたいと思っております。

以上